



令和8年度

松浪小だより

第8号

学校教育目標……『豊かな心をもち、自律して行動できる子』を育む学校

目指す子ども像…『やさしく・かしこく・たくましく』～挑戦するなみっ子～

理想とする学校像……「共に学び 共に歩み 共に創る」

- ① 児童と教職員が学びあう学校
- ② 保護者・地域が学校と学びあう学校
- ③ 教職員が学びあい挑戦する学校



令和8年9月30日（水）発行

茅ヶ崎市立松浪小学校 日高 恭子

シャボン玉の中のわたし

全校朝会では、「シャボン玉の中のわたし～おたがいのからだところを大切に～」の話をしました。一人ひとりのからだや気持ちのまわりには、自分を守る「シャボン玉」がある。誰かに触れるときには「触ってもいい？」と尋ね、「いや」「やめて」と言われたら、たとえ遊びの途中であっても、すぐにやめる。そして、自分自身も「いや」と言ってよい——ということを伝えました。これは、子ども同士のトラブルへの対応だけでなく、私たちの日々の教育活動にもつながる大切な視点だと思っています。日々の経験を経て、子どもたちは少しずつ「自分で決める力」を育てています。保護者の方も素敵です。クリーンキャンペーンの日には、「どうやるの？」とビニール手袋のつけ方を質問する子どもにお父さんが「教えてあげるのは簡単だけど、まず自分で考えてごらん。」と優しく声をかける姿がありました。私たちも子どもの思いや意思を尊重し、「どうしたい？」「どう感じた？」と問いながら、また「考えてみよう。」と促しながら、その子自身の思考と言葉、そして行動を待つことを大切にしたいと思います。同時に、子どもが「嫌だ」「困っている」と言えたときには、その言葉を受け止め、安心して助けを求められる関係をつくっていきましょう。

運動会にご協力を

運動会は、子どもたちが日々の練習の成果を、仲間とともに発揮する大切な場です。もちろん、競技の結果も大切です。しかし、それ以上に、そこに至るまでの努力や挑戦、仲間と協力したり、励まし合ったりする経験こそが、大きな学びとなります。子どもたちが安心して力を出し切るためには、保護者の皆様の温かい応援が大きな支えとなります。今年度は、これまで設けていた校庭への来場者数の制限をなくします。児童数 1,149 人の大規模な運動会となりますが、できるだけ多くの保護者、地域の皆様に子どもたちの頑張る姿を見ていただき、応援していただきたいと考えています。一方で、多くの皆様にご来場いただくからこそ、子どもたちが安全に、そして伸び伸びと競技や演技に取り組める環境をみんなで作ることが大切になります。当日は、競技や演技の進行に合わせて、放送で移動や観覧場所についてご案内することがあります。多くの皆様が気持ちよく応援でき、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるよう、放送での案内にご理解とご協力をお願いいたします。子どもたちの一人一人の頑張りを、会場にいるみんなで温かく見守り、応援する一日にしたいと思います。

保護者・地域の皆様とともに、心に残る、素敵な運動会を一緒につくりましょう。



松浪小学校の「家庭への知らせ」



前期終業式に「家庭への知らせ」を、お子さん一人ひとりに担任から渡します。「家庭への知らせ」は、子どもたちの学習の成果を記号や文章で示すだけのものではありません。そこには、毎日の授業に向かう姿勢、課題に粘り強く取り組んだ過程、友達と協力して活動した姿など、子どもたちの努力が記されています。「家庭への知らせ」は「できた」「できなかった」を判定するものではなく、「ここまでできるようになった」「これからこんな力を伸ばしていこう」という、子どもたちの歩みを振り返り、次の一歩につなげるための大切な、お子さんの「努力と成長の記録」です。

1・2年生は7月に、3年生以上は現在行われている個人面談で、お子さんの友達関係や学校生活や学習について担任からお話させていただいています。1・2年生は、各教科の項目に対する2段階の到達度評価。3年生以上は各教科、「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で、◎よくできる ○できる △もう少し の3段階で評価します。お子さんの様子については個人面談でお伝えするため、所見は記載されません。道徳・総合的な学習・外国語活動は学びの様子が文章で記載されます。

通知表をご覧になる際には、まずお子さんの努力を認め、温かい言葉をかけていただければと思います。

「きれいな文字が書けるようになったね。」「友達と協力して考えたね。」「授業中に発表できたね。」といった具体的な声かけは、お子さんが自分を大事にする気持ちを大きく育てます。一方で、思うような結果が得られなかった部分については、叱ったりが

っかりしたりするのではなく、「どうしたらもっと伸ばせるかな。」「次はどんな工夫をしてみようか。」と、前向きなお話をする機会としてください。そうすることで、お子さんは自ら課題を見つけ、自分で解決しようとする「自己決定（自分で決める）力」を少しずつ育てていくことができます。自分がどう思ったか、どうしたいのか、どのようになりたいか。お子さんの言葉を引き出すことも大切です。その中で「頑張っていたことを知っているよ。」と努力を認める、「ここが伸びたね。」と具体的な成長を伝える、「次はどんなことに挑戦したい？」と自己決定を促す。苦手な部分は「一緒に工夫しよう。」と共に考える。面談で担任と共有した事などを活用し、素敵な時間を創ってください。

「家庭への知らせ」は、学校とご家庭が子どもたちの成長を共有し、共に支えるための大切なツールです。「結果」よりも「努力」や「成長」に目を向けていただきたいと思います。保護者の皆様の温かいまなざしと励ましが、子どもたちに「次も頑張ろう。」という意欲を与え、今後の生活への大きな原動力となります。何事も節目は成長のための大切なチャンスです。この学年が終わる半年後には、どんな自分になりたいか。そのためにはどんな習慣や努力が必要か。後期に向けて頑張るところや挑戦することを明確にしましょう。目標を言葉にすること、言葉を具体で考えること、目に見えるようにすることで時間の使い方や意識が変わります。お子さんは、ご家庭の温かな安全基地の中で安心して自分らしく頑張る力を育みます。

